

スペイン巡礼記（2012年春） 目次

<2019年1月掲載版>

- (1) プロローグ
- (2) 巡礼日記
- 4月24日(火)―25日(水) 冒険への出発
- 4月26日(水) 友との遭遇
- 4月27日(木) 別荘への招待
- 4月28日(土) 土砂降り
- 4月29日(日) 旅は道ずれ世は情け
- 4月30日(月) 皮袋 (Bota)
- 5月 1日(火) 巡礼宿の愛

<2019年2月掲載版>

- 5月 2日(水) もてなし
- 5月 3日(木) ポンチョの効用
- 5月 4日(金) ブルゴスの夜
- 5月 6日(日) いさかい
- 5月 7日(月) 大脱走のマーチ
- 5月 8日(火) 心の温かさ
- 5月 9日(水) フランスの道の魅力
- 5月10日(木) 楽しい夕餉
- 5月11日(金) パエジャ
- 5月12日(土) 最後の晩餐
- 5月13日(日) 休日
- 5月14日(月) 山越え
- 5月15日(火) フランス人の町

<2019年3月完結版>

- 5月16日(水) ガリシアの屋根
- 5月17日(木) マラソン
- 5月18日(金) 湖底に沈んだ町
- 5月19日(土) 便利なポンチョ
- 5月20日(日) プルポの味
- 5月21日(月) 旅は道ずれ世は情け
- 5月22日(火) 星の降るサンティアゴ
- 5月23日(水) 鐘の音
- (3) 便利帳
- (A) 持ち物で特に役立った物
- (B) 注意事項
- (4) エピローグ

スペイン巡礼記

田中 実

5月2日(水) もてなし Santo Domingo de la Calzada-Belorado 22km 5時間半 晴れ
Santo Domingo から緩やかな美しい起伏の麦畑の中を行く巡礼道歩いて772mのBeloradoまで行く。Pamplonaから徐々に海拔が高くなっているようである。今日はLa Rioja州からBrugos州に入る。Pepeはまだ足が本調子でないので一足先にバスでBeloradoまで行き、昨夜私が作ると約束した肉井の材料を買うという。米、醤油と薄切りの肉が必要だが、旨く調達してくれた。巡礼宿は教会の横の棟を巡礼宿に改造した非常に質素なものである。

受付はドイツ人のおばさんでドイツ語しかしゃべらない。ここも宿泊料は心付けで5ユーロを入れる。教会の屋根にはコウノ鳥が巣を作っている。12時半に巡礼宿に着いたので時間はたっぷりあるが牛井を作るためシャワーを急いで浴びて直ぐ料理に取り掛かる。ネギは手に入らず玉ねぎだけを使うことにする。醤油はマギーで日本のそれとはちょっと味が違うがまずまず旨く料理できた。巡礼仲間は醤油を使ったことがないようで始めは心配していたようだが大層気に入ってくれて全て綺麗に平らげてくれた。食事後 Faustino, Pepe と裏山に上る。50m位の小山だが絶景であった。ヒッピーの様なアイルランド人が山頂にテントを張って今夜はここで野宿をするという。さぞかし星空が綺麗であろう。巡礼宿に61歳の日本人男性が到着、話を聞くと毎日30km以上は歩いている健脚である。私同様、既に退職後、山歩きなどで楽しい生活を送っているようで、先日は沖縄を一周してきたという。巡礼道では多くの韓国人と出会うがやはり日本人にあうと話がはずむ。

夜は Julio がサッカーが好きであるため Bar でコーヒを飲みながらサッカー観戦する。



ベロラドの町



巡礼道

5月3日(木) ポンチョの効用 Belorado-Agés 28km 7時間 晴れ一時雨
772mのBeloradoからゆるやかな登りが続きAlto de la Pedraja 1150mから下りとなりAgesにたどり着く。Pepeはまだ足が痛いため今日もバスで移動する。Villafranca Montes de Ocaを過ぎると険しい道となる。下りにかかる森林の中を進んで行く。Agésまで2km位のところで初めてポンチョを使う。ポンチョは薄いナイロンでできているので

ムシムシせずしかも大きなリュックもすっぽりカバーできるので大変便利である。28km と長めの行程のため疲れからか左足の足首が痛い。漸く午後 2 時に Agés に到着する。Brugos に到着する前日に巡礼者が宿泊するために出来た人口 48 人の田舎町である。Albergue Municipal は 2 食付で 20 ユーロと良心的価格であった。Albergue Municipal Bar Restaurante La Taberna de Agés というハウスワインが美味しかった。何時も Bota にワインを入れて回し飲みするが蛇口は細いので飲む量は知れたものだがかなり飲んだように感じる。



アヘスの巡礼宿



オウンブランドアヘス

5月4日（金）ブルゴスの夜 Agés-Burgos 24km 5時間 晴れ後雨

Burgos には 2006 年に仕事の関係で訪れている。その時宿泊はせずマドリッドからの日帰りであったので客先とのミーティングの後、Catedral だけを見学している。

Agés から出発して 2.5km で 80 万年前の旧石器時代の人類の遺跡のある Atapuerca に到着。巡礼道に建てられた看板に良く見慣れたチリの国旗を見つけ良く読んでみると Atapuerca とチリ南部の町 Puerto Montt が姉妹都市であると書いている。Atapuerca の住民は 139 人であり遺跡がある。一方 Puerto Montt は 10 万人でこれといった遺跡もないので姉妹都市の必然性が分からない。その後ブルゴスの近郊にある空港を迂回する道を取ったがドロドロの地道で歩きにくく靴も泥で汚れて大変であった。Pepe は数日無理をしなかったので、足も回復 Agés から元気に歩き出した。Burgos の人口は 17 万人で郊外から Albergue のある Catedral まで 5km もある。また急に雨が降り出したので先頭の Faustino と私は大急ぎで歩き出した。Pedro は足痛で途中からバスに乗ると言うが 37 歳と若いわりにだらしない。Albergue で先日あった 2 人の日本人女性と立ち話したが、もう 1 行程歩いて日本に帰ると言う。しかし月曜日からまた仕事とは真にご苦労様です。Albergue Municipal は 5 ユーロ。設備は非常に良く清潔であった。昼飯は例によって巡礼定食 Menu peregrino で名物 Moricilla(ぶたの血と米を入れたソーセージ)を食べた。個人的にはアルゼンチンのそれ(牛の血入り)の方が美味しいと思う。また Sangria(赤ワインにコニャック及びリンゴを入れた飲み物)も美味しかった。

昼寝をして起きると仲間は部屋にいないので一人町を散策する。Burgos は 800m の高地のため雨模様とあいまって気温は 10 度とかなり肌寒い。まずゴシック建築で有名な Catedral を見学、巡礼手帳を見せると割引がある。何時ものことだがキリスト教徒でもないが、内部に

入ると静寂ゆえか厳かな気持ちになる。内部には多くの立派な礼拝堂 (Capilla) がある。賑やかな道を歩き川沿いの遊歩道に出るとモミの木が綺麗にカット

されているので綺麗である。既に7時になり少し腹が減ったので広場の角の Bar に入って Tapas (Pinchos ともいうが酒のおつまみの事) をさかんに赤ワインを2杯飲む。既に8時だがまだあたりは明るい。夏時間を採用している所以最近では10時頃まで明るい。巡礼宿の消灯は10時である。

巡礼宿の欠点は、2段ベッドのある大部屋に数十人が寝起きするため、必ず躰をかく人がいて、気になるとなかなか寝付けないということ。自分も躰をかくのだが寝付きが遅くいつも悩まされる。何時も耳栓をして寝るのだが、音は半減するものの完全な効果はない。



ブルゴスの大聖堂



ブルゴスの城壁

5月5日(土) 巡礼宿 Burgos-Hornijjos del Camino 21km 4時間半 小雨後晴れ

かなり歩いた様に思うが Burgos から Santiago までまだ 487km もある。

朝から小雨のためポンチョを着て7時に出発するが9時半には雨が止んだのでポンチョを脱ぐ。しかし暫くすると雨が降り出したためポンチョを着るはめになる。5月には普通気候が安定すると言われていたが今年は雨が多いとのことである。Rio Arlanzón のほとりの木々が美しい。街道沿いには小麦畑が広がっており、その緑の絨毯は美しい。今日は21kmしか歩かないので、元気者の Faustino は Hontanas まで31kmを歩きたそうで不満顔である。私も体調が良好なので一気に歩きたい。しかしこのグループのコンダクターは Jesús であり事前に計画したとおり歩く距離は25km前後として30km以上は歩かない方針のようである。これが Jesús にとり後ほど効果を表すがこの時我々は物足りないという思いが強かった。実際 Hornillos に着いたのは12時前のため受付開始まで1時間近く待たなければならなかった。

小さな村で巡礼宿一軒、レストラン一軒だけの人口77人の村であり観光するところもない。Albergue Municipal はこれも教会の付属施設だが石作りの建物でベッドの真ん中がへこんでいるので極めて寝心地が悪い。へこんだ所に衣類を敷いて何とか矯正できた。

Albergue で何度も一緒になる韓国人の夫婦と話したところ、来るまでにかかなりトレーニングをしてきたらしく済州島を歩いて一周してきたとのこと。しかし夫は足が痛いらしく、又

妻も足にマメができて痛そうであった。この Albergue の規模は小さいので後から到着する巡礼者は裏側にある体育館にベッドもしくはマットを引いて寝ることになるが、20-30 名位はいたと思われる。Hontanas までは 10km 以上あるので Hornillos で泊まる人が多い様である。レストランの食事の味はなかなか良かった。巡礼定食の場合大都市のそれが必ずしも美味しいということはなく、寧ろ小さな町のレストランの方がワインをふんだんに出してくれたりサービスも良い。



オルネージョの巡礼宿



オルネージョの風景

5月6日(日) いさかい Hornillos-Castrojeriz 21km 5時間 晴れ

最近巡礼宿のベッドに慣れたのか又疲れからか夜も良く寝られる。

この近辺の巡礼道は 800m から 950m の海拔であるので比較的気温が低く歩きやすい。今日も 21km と距離も短く 12 時に Castrojeriz に到着して Albergue Casa Nostra に投宿。Faustino と Pepe は昼飯を作るため買い物に行っている間に Julio と Muñoz は Albergue Municipal の方が綺麗だといってそちらに行ってしまった。その後 Julio と Faustino が、もめることになる。Julio は我儘なところがあり正直 Julio が悪い。Faustino が作った Espagueti Napolitana を食べていたところに Julio がひょっこり顔を出したが誰も食べると言わないので気まずくなり Julio は立ち去る。昼寝の後 Pepe と Faustino 3 人で裏山に登る。Jesús も誘うが明日のために鋭気を養うと言って宿にとどまった。100m 位はありそうな丘のためまたトレッキングシューズを履くことにする。かなりの急坂を登り 30 分ぐらいで頂上に到達したが今日歩いてきた道がはるか地平線まで続いている。はるかかなたの丘には 30 機ぐらいの風車が望める。

この丘に登っているのは現地の住民と巡礼者 2-3 名だけであった。この岩山には岩を繰りぬいた洞窟の家が何軒もある。夏は涼しく冬は暖かいとのこと。頂上には 14 世紀に作られた Templo Fortaleza de San Juan (サンフアン城) の遺構がある。

夜も卵入りサラダを作ってくれて感謝の念にたえない。毎日楽しく巡礼を続けられるのも彼らのお蔭と感謝、感謝。

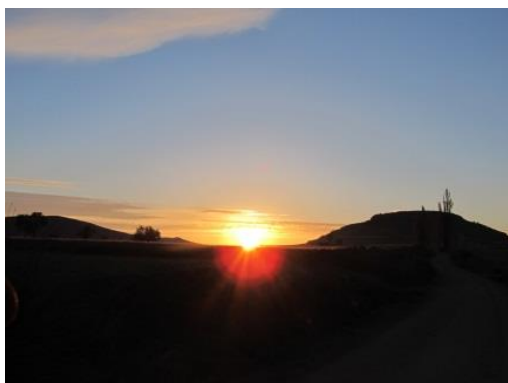


カストロヘリスの遠望



カストロヘリス城

5月7日(月) 大脱走のマーチ Castrojeriz-Fromista 25km 6時間 晴れ後曇り
ブルゴスに別れを告げパレンシア州に入る。朝7時 Albergue を出発、Julio の宿泊する Albergue の前でしばらく待っていると Julio がバツ悪そうに出てくる。しかし Faustino はまだ怒っているようで挨拶もしない。沈みゆく月と朝日が美しい。前方を見ると急峻な丘が横たわっており息も絶え絶え頂上にたどり着く。ここからは単調な下りが続きはるか彼方まで家一軒も見えずかなり疲れる。例の韓国人夫婦も頑張っているのを見かける。歩くのが毎日の仕事だが、ちょっと疲れた時、又はスピードを上げて頑張って歩きたい時、大脱走のマーチ、水前寺清子の365日のマーチ、山本リンダの狙い撃ち、を口ずさみ歩くと調子が良いことが分かり、仲間にも教える。大脱走のマーチは彼らも良く知っており皆で口笛を吹きながら行進した。Rio Pisuerga にかかる Puente Fitero を渡るとパレンシアに入る。巡礼道の川には多くの石橋がかかるが全て美しい。今日も予定通り1時に Frómista の Albergue Municipal に到着。ここも設備は新しく気持ちが良い。教会の軒先にはコウノ鳥が巣を作っている。巡礼定食は10ユーロでポテトサラダとヒラメのフライを食べる。Julio は右足のくるぶしの上が痛いと言われ巡礼者を手当てしてくれる病院に行って痛み止めの薬をもらってきた。疲労から来る痛みにも湿布薬が良く効くので持参したパテックスをはってやる。Albergue の前の広場にはロマネスク様式の Iglesia de San Martin がある。



フロミスタの朝日



サンマルティン教会

5月8日(火) 心の温かさ Frómista-Carrión de Los Condes 19km 5時間 雨後晴れ

朝から雨のため雨カップを着て出発する。今日くるぶしの上が痛くなり意識的にゆっくり歩くことにする。疲れからきているので用心すれば大丈夫だと思う。フロミスタからレオンまでは押しなべて国道の側道を真っ直ぐ歩く道で非常に単調であるため口笛を吹きながら行進した。今日の目的地 Carrión まで 6km 手前にある Villalcázar de Sirga にはロマネスク様式とゴシック様式がミックスされた Iglesia de Santa Maria la Blanca がある。しかし残念ながら閉まっており内部の見学はできなかった。Carrión の人口は 2400 人で比較的大きな町である。ゆっくり歩いたためグループの最後尾となってしまう、今夜の宿 Albergue Parroquial を探すのに苦労する。手前に大きな Albergue があつたがここは青少年用で一般巡礼者は宿泊できない。さー困ったととぼとぼ広場に歩いて行くと Jesús が前方で手を振ってくれている。私が遅いので心配になって探しに来てくれたらしいが、本当にありがたい。Albergue の入り口は鉄板の黒い門があるだけで入り口はわかりにくいので助かった。修道院のおばさんが親切に色々説明してくれる。また受付でマリアさんのペンダントを記念にくれた。この Albergue のベッドは珍しく 2 段ではなく普通のベッドのため寝やすい。今日初めて持参した湿布を足首にはる。Julio が親切にも先日医者でもらった痛み止めの錠剤をくれたのでそれを飲む。今日は 12 時に Albergue に到着したので肉じゃがを作るためシャワーもそこそこに準備を始める。今日の肉は余り薄く切れていないので味が心配である。鍋 2 つに一杯つくつたが 9 人で食べたので完食。しかし以前作った肉じゃがの方が美味しかったという意見が多かった。この町にもコウノ鳥が教会の尖塔に巣を作り、ツガイで卵を温めているようである。最近雨続きで肌寒いので風邪気味で鼻がでる。



クエサ橋



コウノトリの巣

5月9日(水) フランスの道の魅力

Carrión de Los Condes-Ledigos 23km 6時間 晴れ

Calzadilla de la Cueva までの道は 17km の真っ直ぐの道でしかも町も何もなく女性は用をたすところもない道である。従い仲間の Diana は今日はバスで移動するという。トイレ休憩できるような場所が必要だと思う。この様な単調な道は例の口笛行進が効果を発揮する。

Ledigos に 1 時に到着して Albergue privado el Palomar に宿泊する。Bar も兼ねた私営のこの町唯一の Albergue である。かなり古い建物で決して快適とは言えないが、広い裏庭には芝が生えているので日向ぼっこには最適である。仲間が早速日光浴しだしたので、写真をとつ

てやったが、例によってお腹がポッコリ出ている様は白鯨の様で皆で大笑いをした。巡礼では現地に到着してから疲れをいやすだけでなく色々楽しいこともある。庭ではたくさんの巡礼者が食事をしたり日向ぼっこをしている。70歳のデンマークのおじさんは英語の教師をしていたので英語は旨い。退職後既に8回目の巡礼だというのが本当にすごい。殆どの巡礼者がスペイン人以外であるのでスペイン人の割合は10-15%前後と思われる。



スペイン人の友人と（左が私）



白鯨の風景

5月10日（木）楽しい夕餉

Ledigos-Bercianos 26km 7時間 晴れ

最近ではやっと天気も安定して雨も降らなくなった。またこの近辺は険しい丘や山もなく何時も国道沿いの巡礼道を歩いてレオンを目指す。ただ単調で余り美しいとは言えない。気温も30度近くなり汗かきの私は汗みどろである。16km歩いて比較的大きな町 Sahagún に到着する。ここからはレオン州に入る。Jusús は腎臓を一つ取っているので時々体調を崩すことがあり非常に疲れて Sahagun に到着する。薬局に行って血圧をはかるというので暫く待つことにする。その間私は Bar に入って caña を一息に飲み干す。大汗をかけた後なので本当に美味しい。Julio は足が痛くなり歩けないため止む無く 10km 先の Bercianos までタクシーで行く。リュックを運んでやるというが、巡礼者は大きなリュックを担いで歩くことが大切と Jusús もその好意を断る。先日からハンガリーの女性が抜きつ抜かれつ頑張っているが、英語もスペイン語も話さないで話しかけても微笑みだけで会話が続かない。Jusús は Sahagún から遅れだしたので最後尾を一人で歩かせるのは心配なので私もスピードを落としてあれやこれや話しながら同行する。車道沿いの巡礼道の場合時々車道を横断するが、スペインの様に右側通行の道の場合は、まず左を見てそれから右を見て安全を確かめてから横断するのが鉄則である。多くの車はかなりのスピードで走っているので交通事故にあった巡礼者もいたと聞く。Albergue Parroquial は町はずれの一軒家である。珍しく朝食夕食込みで心付けシステムである。10ユーロを入れたが、申し訳ない気がする。夕食は巡礼者の有志がスパゲッティを作る。赤ワイン、サラダもついている。巡礼者が50人位勢ぞろいして夕食を食べる。受付のスペイン人が司会。まず参加国の紹介されたが14ヶ国であった。その後各国の歌を歌うが日本からは私一人であったため、世界的に有名だった‘すきやき’（上を向いて歩こう）を声を張り上げて歌い大喝采を受けた。後でこの歌を

ラジオで聞いたとか良い歌だったとの批評をいただいた。また Bota の回し飲みをして大いに
もりあがり楽しいひと時を過ごした。全員 Santiago まで歩くという仲間意識のため余計に盛
り上がる。

司会の人音頭により全員で歌った' BAMBÁ ' の替え歌。

(a)

Para ser peregrino	巡礼者になるために
para ser peregrino se necesita	巡礼者になるために何足かの良い靴が必要だよ
unas buenas zapatos	
unas buenas zapatos	良い靴だよ
y andar y andar	そして脇道や側道を歩いて行こうよ
por sendas y desvios,	
por sendas y desvios	脇道や側道だよ
caminaré, caminaré, caminaré	歩こうよ、歩こうよ、歩こうよ
peregrino, peregrino, peregrino	巡礼者よ、巡礼者よ、巡礼者よ

(b)

Los pies me estan matando	足が痛くて死にそうだよ
Los pies me estan matando	足が痛くて死にそうだよ
Tengo una ampolla que me voy curando	まめが出来てベタディネで治すよ
Que me voy curando con Betadine	
Que me va de cine	巡礼者のアルコールとイブプロフェーノで調子いいよ
Que me va de cine	
Y el alcohol de romero y el Ibuprofeno	
Y el Ibuprofeno, me curaré, me curaré, me curaré	イブプロフェーノで治るよ、治るよ
Peregrino, peregrino, peregrino	巡礼者よ、巡礼者よ、巡礼者よ

(c)

A los 10 de la noche	10 時には
A los 10 de la noche	
Se apaga la luz y sufren mis oidos	消灯だよ。しかしうるさいよ
Sufren mis oidos, y los tampones	音の為に耳栓だよ
Para los sonidos	
Son los ronquidos de los peregrinos	巡礼者の鼾だよ
Cansados del camino	道中で疲れているよ
Cansados del camino	道中で疲れているよ
No dormiré, no dormiré, no dormire	寝られないよ、寝られないよ、寝られないよ
Peregrino, peregrino, peregrino	巡礼者よ、巡礼者よ、巡礼者よ



サハグンの門



ベルシアノスでの夕餉の集い

5月11日(金) パエジャ Bercianos-Mancilla de las Mullas 27km 晴れ
 今日朝から快晴のため30度近くと非常に暑い。7月8月の巡礼は40度にもなると言われておりこの時期は避けるべきだと思う。レオンまでは国道沿いの巡礼道であり日陰となる林もない。Julioは足が痛いため最後尾でゆっくり歩く。私も暑さのためスピードがあがらず最後尾から二番目。Jusúsは今日は回復して元気に歩いている。午後1時半にMancillaの町に着くも一人で歩いているためAlbergue Municipalを探すのに苦労する。しかし前に行っていたJusúsが先日同様Albergueの前で待っていてくれる。昼はAlubia(インゲン豆のスープ)とpangaという白身の魚のフライを食べる。乾いた喉にCañaが旨い。このレストランは芝生の屋外にテーブルを置いてあるので裸足になると気持ちが良い。夜はFaustinoがpaella con pollo(鶏肉入りパエジャ)を作ってくれる。本当に優秀なシェフである。先日からAlbergueで一緒になるオランダ人の兄ちゃんもpaellaを食べたことないといっているので振る舞いと旨い旨いといって喜んでいて。レオンでは絶対パエジャを食べると言っていた。昼に顔見知りになった韓国人が米を炊くので食べないかと招待してくれたがパエジャを食べるので断った。この人は一人で歩く健脚。



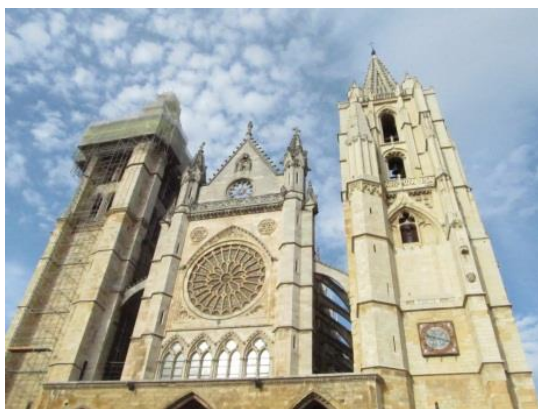
マンシージャの城壁



パエジャの夕餉

5月12日(土) 最後の晚餐 Mancilla-León 19km 晴れ
 最近朝型になって今日も6時過ぎに目覚める。部屋の電気はまだついていないので頭にヘッドランプを着けて洗面所に行く。しかし後で聞いた話では私のランプが明るくて眠れないとの苦情があったらしい。Julioは足の調子が思わしくないため今日もバスで移動する。今

日は気温も 24 度で湿度も低いので歩くのに快適である。しかし相変わらず国道沿いの道を歩いてゆく。Jesús は体調を心配してゆっくり歩くので私は体調は良いのだが彼につきあう。レオンは人口 15 万人でブルゴスと同じ規模である。Albergue de las Carbaljas は教会の付属施設であり朝食込で 5 ユーロである。Centro 周辺にはサンチアゴ、ブルゴスのそれとも引けを取らない優雅な Catedral や Gaudi の作った Casa de Botines がありレストラン、土産物店は観光客で大層賑わっている。Pamplona からスペイングループと共に歩いて楽しく過ごしてきたが、歩行距離が短い日もあり、今後の旅程を計算すると 22 日にサンチアゴに到着できないため、レオンで彼らと別れてサンチアゴを目指すことにする。彼らも随分引き留めてくれたが帰りのフライトの都合もあり彼らと行動を共にすることはできなくなったのは全く残念である。レオンからアストルガまでバスで移動することにしたが、Faustino と Pepe がかなり遠いバス停まで案内してくれた。バス料金は 3.5 ユーロと安い。町に Despedida de soltero(独身お別れの会)をするため新郎を檻の中に入れて街中を練り歩いている。また新婦は角のついた帽子をかぶって別の場所で女友達と氣勢をあげている。どこの世界も結婚すれば男は牢屋にはいったようなもので、女は角をはやして強くなるということであろう。非常に楽しい fiesta(お祭り)である。今夜は最後の夜であり送別会となる。以前より彼らからスペインにくればどんぐりだけで育ったイベリア豚の Jamon Jabugo(ハブゴハム)を食べるようにと教えてもらっていたので、このハムを買ってごちそうしたいと申し入れていた。昼食の後何軒かのレストランを回りやっとこのハムをみつけて 1.2kg を 140 ユーロで買う。日本の高級肉の値段であるのでスペインでも一般庶民の口には入らないハムである。夕方 8 時になりハムとパテとパンの夕食。このハムは冷蔵庫には入れず常温で保存するとのことである。少し固めだが油がのって噛めば噛むほどジワっとうま味が染み出てくる感じである。ワインを Bota で回し飲みする。夜も更けて宴も終わりのころ、皆が Bota をプレゼントしてくれる。心使いが本当に嬉しく涙が出そうになる。夜は近くで若者が騒いでいるため殊の外寝苦しかった。



レオン大聖堂



独身お別れ会

5月13日(日) 休息日 León-Rabanal del Camino 69km 晴れ

朝 7 時スペイン仲間が出発する。記念撮影の後、彼らと別れを惜しみながら見送る。正直涙が止まらなかった。今日から一人旅。気楽であるようで緊張もするし、また寂しくもある。バス停までは歩いて 30 分位かかる。道端の小奇麗な Bar に入って、café con leche とクロ

ワッサンを食べる。バスは10時半出発でAstorgaまで行く巡礼者が多い。最近花粉が多く飛んでいるので、またアレルギーのため鼻が出だす。私のアレルギーはインターナショナルだ。Astorgaまでは48kmで1時間足らずの旅である。これを歩くと2日位はかかる。丁度旅の中日で休養としては恰好の1日となる。車道沿いに巡礼道があり巡礼者が晴天の中をもくもくと歩いている姿を見て自分も同じように歩いて来たのかと思うと感慨一塩である。途中でAlbergueで良く見かけた若い米国人の女性がもくもくと歩いている。ひょっとするとスペイン人仲間を見つけることができるかもと目を凝らしたが見つからず。そうこうするうち美しいAstorgaのCatedralが目飛び込んでくる。人口1万2千人の町で大層美しい。この町で一泊するのも良いだろう。バスから降りるとき偶然Logroñoで足を痛めた西山さんが乗り込んでくる。まさか再度会えるとは思っていなかったので驚いたが先を急ぐ必要あり一言言葉を交わして別れる。急いでバス会社の受付に行きRabanal行きのバスはあるかと聞いたところタクシーで行くしかないと素っ気ない。今日は日曜日のためタクシーが無いかもしれずちょっと心配になる。やっとの思いでタクシーを見つけて20kmの道をRabanalまで行く。レオンの標高は838mだがRabanalは1156mである。AstorgaからRabanalまではチリ中部の山岳地帯と非常に似た灌木の生えた荒地ばかりで羊を飼って生計をたてているようである。1時にRabanalに到着、Albergue Municipalに投宿しようと思ったが余りにも貧弱なので向かい側にあるAlbergue Privado Nuestra Sra de Pilarに投宿する。後で聞いた話だがこの村のAlbergueには南京虫がいて良く噛まれるとのこと。ここまで来ると足に水ぶくれ、まめを作っている人が多く宿のおばさんが手当てをしてやっていた。この宿にはBarもあり良い商売になっているようである。夜はFaustinoが作ってくれたBocadillo(フランスパンにハム等をはさんだサンドウィッチ)を有難く頂く。宿に日系2世のブラジル人の女性が宿泊していたので暫く話す。お父さんは日本企業の駐在員だったそうで彼女も暫く日本で働いたらしい。



サンタマリア大聖堂 (アストルガ)



ラバナルの風景

5月14日(月) 山越え Rabanal-Ponferrada 33km 9時間 快晴

今日は33kmで1500mまで登り541mのPonferradaまで行くきつい道である。朝6時半まだ暗いうちに出発する。三日月が大層美しい。辺りが暗いのでヘッドランプをつけて出発することにする。山道を1時間半登りCruz de Fierroに到着して記念撮影。そこから一気に500m

を下る。この山超えの道は美しいが信州の方がもっと美しいのではないだろうか。相変わらず花粉が飛んで鼻がむずむずするが体調は良好でテンポ良く歩く。1時に Molinaseca に到着。Ponferrada まではまだ 8km あるので昼飯を食べることにする。町の直前で抜かした太ったオジサンが同じテーブルに着く。英国人の牧師とのことで Camino を 4 回に分けて歩いているとのこと。Morinaseca の町の出口に日西 Camino 友好記念碑が立っていた。こんな所にも日本とスペインの友好碑があること自体感慨深いものがある。だらだらとした国道の坂道を登って 2 時間で Ponferrada に到着する。Albergue Parroquial は町はずれにあるため買い物は不便であった。また町に出かけたが巡礼定食が食べられる適当なレストランがなく不便である。仕方なくスーパーでハム・トマト・ツナ缶などを買って Albergue で食べることにする。更にゆで卵も作る。ベッドのカバーをくれたがこれは清潔で良いので今後の為にとっておくことにする。Albergue で一人旅のイタリア人のオーバーサンと会って挨拶するもイタリア語しか話さないので言葉が通じない。年は 77 歳とのことで元気で頭が下がる。



ラバナルの夜明け



La cruz de hierro

5月15日（火）フランス人の町

Ponferrada-Villafranca de Bierzo 24km 6時間 曇り後快晴

Ponferrada は人口 6 万人の中規模の町で暫く民家が軒を連ねる国道を歩いて行く。そこを抜けると赤い綺麗なアマポーラが咲いていたり、コウノ鳥が飛来していたり心和む日本の田舎町のような風景が続く。コウノ鳥の飛んでいる姿を写そうとしたが、コンパクトデジカメしか持っていないので旨く鳥を追えない。両手にスティックを持って歩くので重い一眼レフのカメラを持参しなかったのは残念である。今日は 2 回休みをとり 1 回目は Bar に入って Café con leche とトーストを食べる。また持参しているオレンジも食べる。長距離を歩くには喉の渇きを癒してくれてまたビタミンが補給できるオレンジは最適である。途中でまたイギリスの牧師さんが Bar で休んでいるのを見つける。なぜ一人で休んでいるのかと聞くと自分は足が遅いので一足先に出発したが仲間が来るのをここで待っていると言う。一人で歩くとち

よっと寂しいが休みたい時に休めるので都合はが良い。巡礼では一人で歩く人も多いが自分を見つめるという意味でも良い。途中でイタリア人のおばさんを追い抜きまた挨拶する。もくもくと歩く姿には感心する。何時ものことだが 20km を超えると最後の数キロが長く感じる。町の入り口にある Albergue privado Ave Fenix に到着すると冷たい水を振る舞ってくれて有難いが何時までも待たせるので向かい側にある Albergue Municipal に投宿する。Fenix で待っていたというフィンランド人が Municipal に移ってきたので理由を聞くと同じ不満を口にしていた。Villafranca はフランス人が移住してきて作った谷合の町だがこじんまりしていて非常に美しい。ここなら 2-3 日滞在しても心地よいだろう。昼ごはんは Plaza Mayor にあるレストランのテラスに座って巡礼定食を注文する。サラダと Butillo(ブティエリヨ 豚肉の香料煮込み)を食べる。例によって水と赤ワイン付で 10 ユーロ。昼寝の後町を散策する。とある店でチリで良く食べたことのあるエンパナーダ (オリーブと肉詰めのパイ) があったのでそれを買って晩飯にする。湿度が低く気温も 22 度位なので気持ちが良い。午後 8 時だというのに、まだ子供達が公園で遊んでいる。最近では暗くなるのは 10 時を過ぎるので昼が非常に長い。



ポンフェラダ城



ひなげしの群生

「5月16日(水) ガリシアの屋根」へ続く：(会報電子版3月号へ)

(たなか みのる：元ニチメンアルヘンティーナ社長)